

# 絵本とは、絵本入門

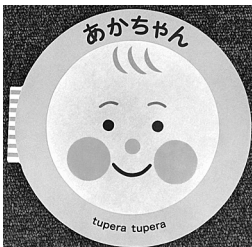
いま、絵本にないを求めて―アイデア満載の絵本たち

「絵本で、そんなこと有り？」と思うような絵本が、近頃頻繁に目につくようになってきました。さまざまなアイデアが、さまざまな形で絵本に実現化されています。例えば、tupera tupera は、丸く切りぬいた形の赤ちゃん絵本を作りました。『あかちゃん』（ブロンズ新社 二〇一六）という絵本ですが、丸いページの中にまんまる顔の赤ちゃんやクマやボール、タンバリンなどがページを開くごとに出てきて、ここまではなんの変哲もない展開なのですが、丸いもののバリエーションの最後で見開きいっぱい（二つの丸のつながりになります）にお母さんのおっぱいが現れます。「絵本を広げて胸に置けば、誰でもお母さん」、「お父さんだってお母さんになれますよ」といったアイデアで絵本ができていて、笑ってしまいます。ユニークな遊び心ですが、「絵本で、そんなこと有り？」ということばも出ようというものです。遊び心なくして、絵本の発展はありません。しかし、どうしてあえて絵本でお母さんのおっぱいを全開

して、赤ちゃんとのコミュニケーションを楽しもうとするかなのです。我々の時代は絵本にないを求めているのか、絵本でなにが実現できると考えているのか、興味深い問題提起でもあるように思います。絵本でどこまでなができるか、おっぱいを全開しながら、挑戦していこうとしているのかもかもしれません。

『あかちゃん』の場合は多少過激ですが、こうした従来の枠を越えてアイデアを絵本に実現化させていこうとする方向は、一つの時代性となりつつあるように思われます。絵本の印刷技術や製本技術の向上が、それを支えているので

石井光恵



『あかちゃん』